

今は震災後ではありません。次の震災の前です。

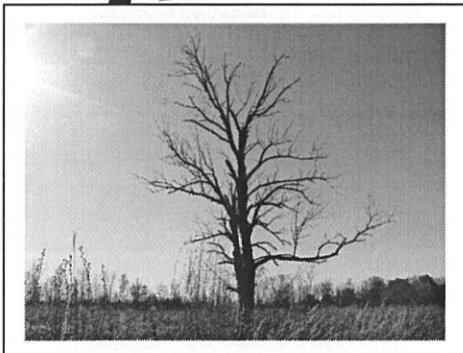
題字は、「千年後の命をまもりたい。」平和のために残した「広島原爆ドームのように」「津波の爪あとを残そう」と決めて活動を始めた女川町の中学生のことばです。

女川町は20mにも及ぶ大津波で町の建造物の7割が破壊され、10人に1人が死亡した宮城県の被災地です。

このことばがずしりと響いたのが、4月14日に起きた震度7の「熊本地震」です。今も1250回以上を数える余震におびえる人々が避難生活を続けています。気象庁は今後当分の間は震度6弱の地震に注意するよう伝えています。

日本列島には数多くの造山帯があり、どこで地震が起きても不思議ではありません。東日本の震災も、熊本地震も決して人事でないことを改めて心に刻んで、できる支援を行なっていきたいと思えます。

Abita見ましたか？



放射能の影響で外遊びができない福島の子供を描いたショートアニメーションです。作者はドイツ在住の日本人学生です。この作品はヨーロッパやアフリカアメリカなど世界各地で上映され、優れた作品として国際賞も受けています。繊細な描写と静かなメロディーが大切なことを問いかけてくる作品です。

実行委員会では本日上映会を行い原発事故についても考えていきます。

多くの方が「アニメーション・A b i t a」で検索をして見て欲しいと思えます。

熊本地震募金有難うございました！

地震直後から「募金活動に取り組みたい」という声が出され、18日から23日まで丸田町駅周辺から学校までの各場所で募金を訴えました。学校関係者以外の多くの通勤途上の方々からも募金していただき、23日の保護者会でも大勢の保護者の方々からご協力いただきました。おかげさまで128,984円が集まりました。有難うございました。



熊本地震の現状

本校生徒の親戚の方から、熊本地震の様子を写したお手紙を頂戴いたしました。4月14日の晩から余震が1000回を超え、今もなお避難所生活を強いられている人が大勢いる現状が続きます。手紙を読んでいるうち、5年前の東日本大震災が起こった直後の情景を連想しました。読者の皆さまにも想像ができるでしょうか。

- ・電気も水もガスも止まりました。電気はすぐに回復しました。みんな水がないので大変らしく、家は幸い井戸水が庭に5箇所もあります。救援物資が来ました。飲み水、携帯ガスコンロ、ガスボンベ、御飯100食、塩、等。 まだまだ余震があり、怖いですが、**庭のバラは綺麗に咲いています。**
- ・地震が1000回以上続いています。ひいばあちゃんは **戦争に比べたら、まだまだ**・・・と元気に片付けています。



キモチの防災できていますか？

熊本県益城町を突如襲った「震度7」という記録に、日本のどこにいても自然災害のリスクがあることを思い知らされました。内陸型地震の中でも横ずれ直下型地震といわれ、地球が歯ぎしりをしたと表現できます。自宅が壊れ、歯ぎしりが1000回以上続く状況で安眠することは難しいです。東日本大震災のときも夜の余震が走るたび、避難所での不安が積もりました。そんなとき、どんな行動をとればよいか考えないと生き抜いていけません。電気・水・ガスのライフラインが止まるということは、原始生活に戻ることだと想定しなければいけません。読者のみなさん、**キモチの防災できていますか？ イザというときの備蓄は整っていますか？**

キモチの防災は、防災ブックや家族との普段からの話し合いによって、意識が強くなっていきます。今回紹介する「地震イツモノート」(ポプラ文庫)では、阪神・淡路大震災での体験や、記録をもとに相互救助やコミュニケーションのアドバイスがわかりやすく書かれています。備蓄しておく飲料水や保存食、衛星用品などもずっとバックに置いて安心するのではなく、誰でもわかる場所に置き、定期的にかけて交換・補充することで、より防災意識が高まるのではないのでしょうか。

